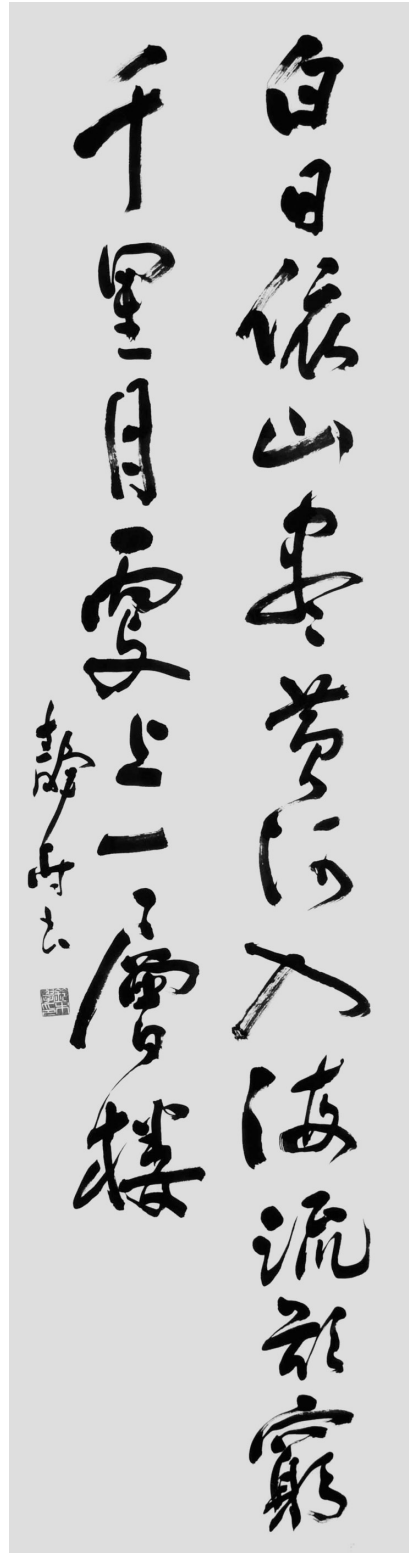


A

鈴木静村書

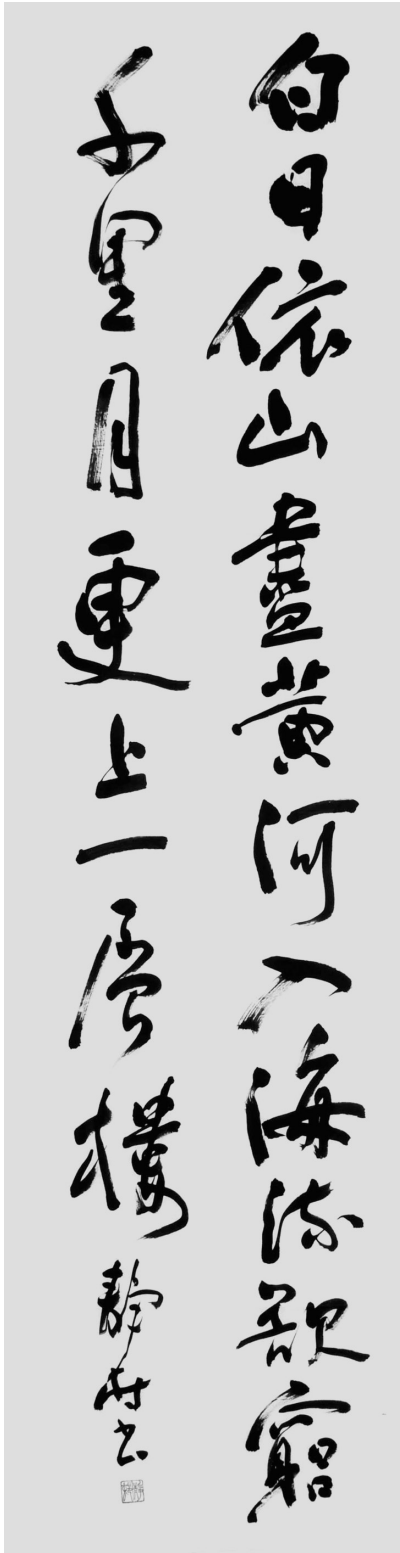
白日依山盡 黄河入海流 欲窮千里目 更上一層樓 (王之渙)
 白日山に依って尽き、黄河海に入って流る。千里の目を窮めんと欲して、更に上る一層の樓。



B

概観

この欄で時に触れ、〳各人の作品を壁間に掲げて自己批評〳を奨励し続けているが、さて実践となると、おいそれとはいかないらしい。曰くに「先生に批評していただくのが…」充分に解ることだが、この一歩前での自己分析を勧めたい。必ず新しい事項の発見があり、より周辺まで広く深めることができるからである。



主な文字について

白 一画目の長短、点の位置で表情が変容。 盡 B筆順、四画目からタテ画へ。 黄 B上部二つに分けた形。 海 墨継ぎ。 欲 B細いが字幅窮 B弓部異体。 千里 B連綿一字として。 月 B二画目ハネ糸流。 更 墨継ぎ。 A古字。 一 上向き、下向きの相違。 層樓 Bメリハリ不足、キリッとさせたい。

訳：太陽は西の山に沈んでゆき、黄河ははるか東の海に向かって流れてゆく。私は千里の彼方まで見渡そうと、この高樓のもう一階上へと登った。

予告 (七月二十二日締切)

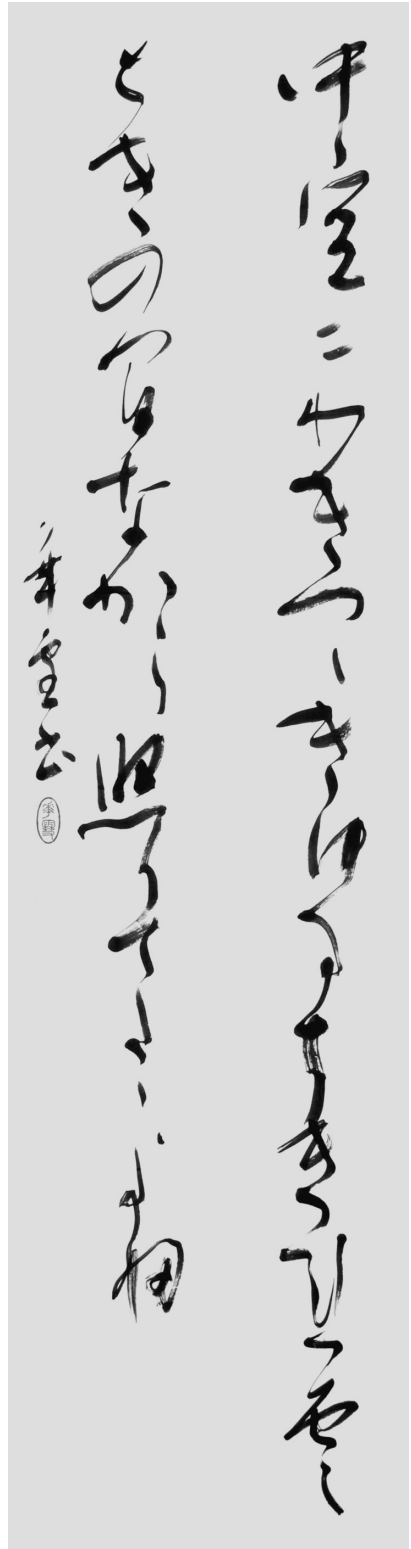
抽身朱墨塵埃裏 入眼山林氣味長 (楊誠齋)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

A

平岡華雪先生書

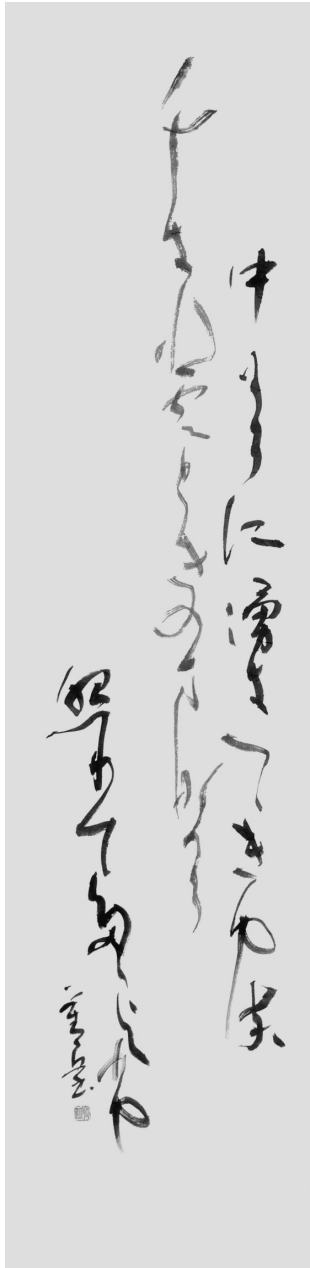
中空に湧きつ、消ゆるちぎれ雲時の間ながら照りてただよふ(若山喜志子)
中空にわきつ、きゆるちぎれ連雲ときの間ながら照りて多、よ婦



B

北島菁丘先生書

中曾らに湧きつ、きゆ流千支れ雲ときの万那可ら照りて多、与布



学 び 方

三行書きは、右側二行の集団と結句の左下の墨を強くした集団による分ち書きですが、一行目の所々の放ち書きに対し、二行目は連綿で流れを出して対比させる様になりました。又墨を落として渴筆で立体感を出せる様にし、渴筆の長い線で流れを出し、流れを止める為に横画を用いる事も必要とされます。「千支れ」の縦画に対して「雲」で横画を用いました。又画数の多い文字は、太細をつけて明るくすることも大切です。渴筆が続く時は、線が弱くならない様に筆圧をかける所も必要です。特にかな条幅の作品は、紙面に書が負けない様に場面の变化も必要と思われれます。

牧水の妻だった喜志子は、文学を志し上京の際に出会った縁で結ばれたが、その前に牧水は、前妻と激しい恋愛の果て別れてからの事だった。然し牧水との生活は辛く幸せから遠いものであった。それは牧水が詩人である故に旅の詩人でもあり、加えて酒の詩人でもあったので大変辛い生活だったと言う。晩年の歌には悲しみと嘆きの歌が多い。

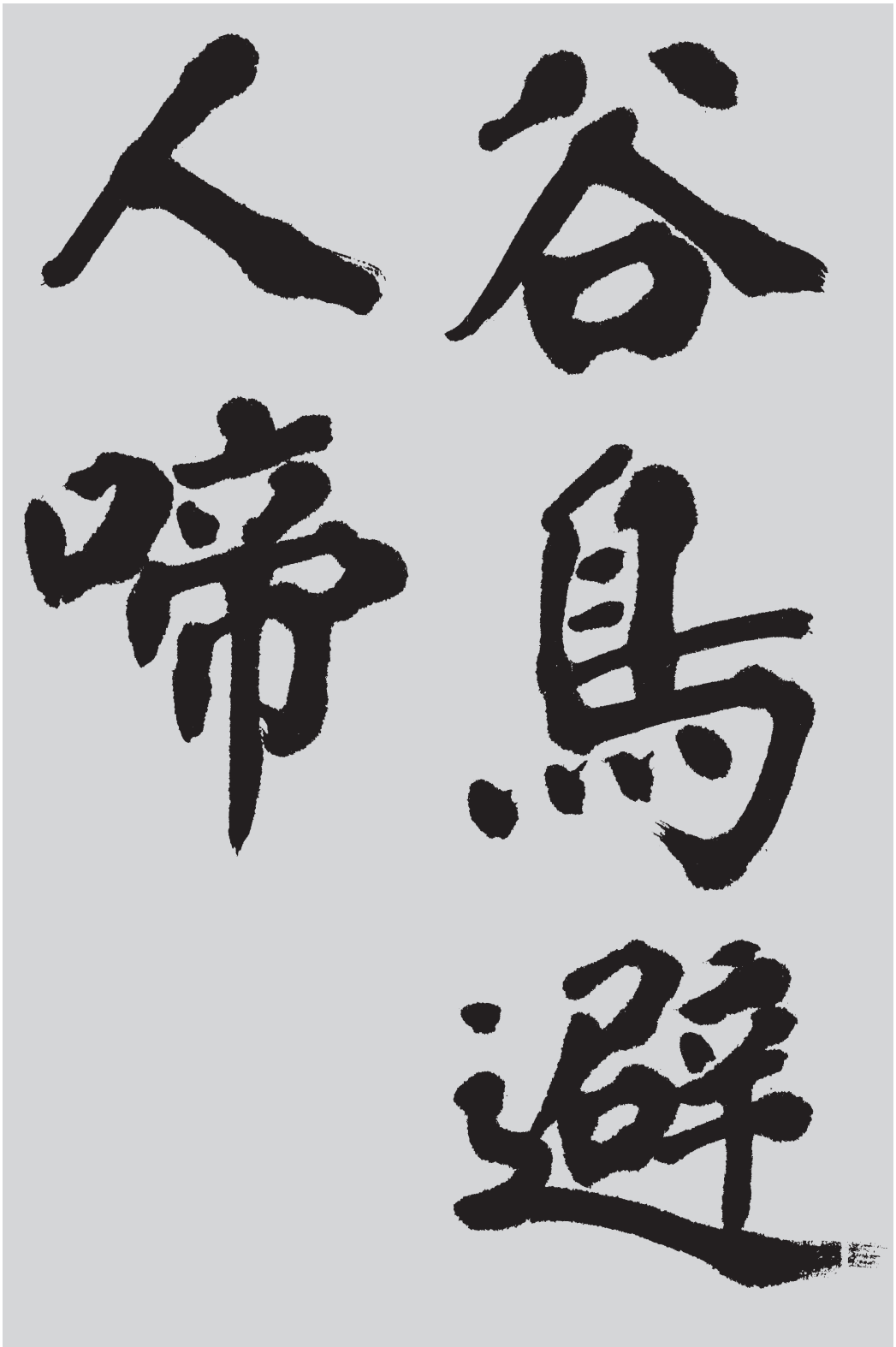
予告 (六月二十二日締切)

はつ蟬の声ぞと聞けばはたと止みて再び鳴かず朝の若葉なり(土岐善麿)

- ◆注意
 - ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

平岡華雪先生書

谷鳥人を避けて啼く(盧之翰)

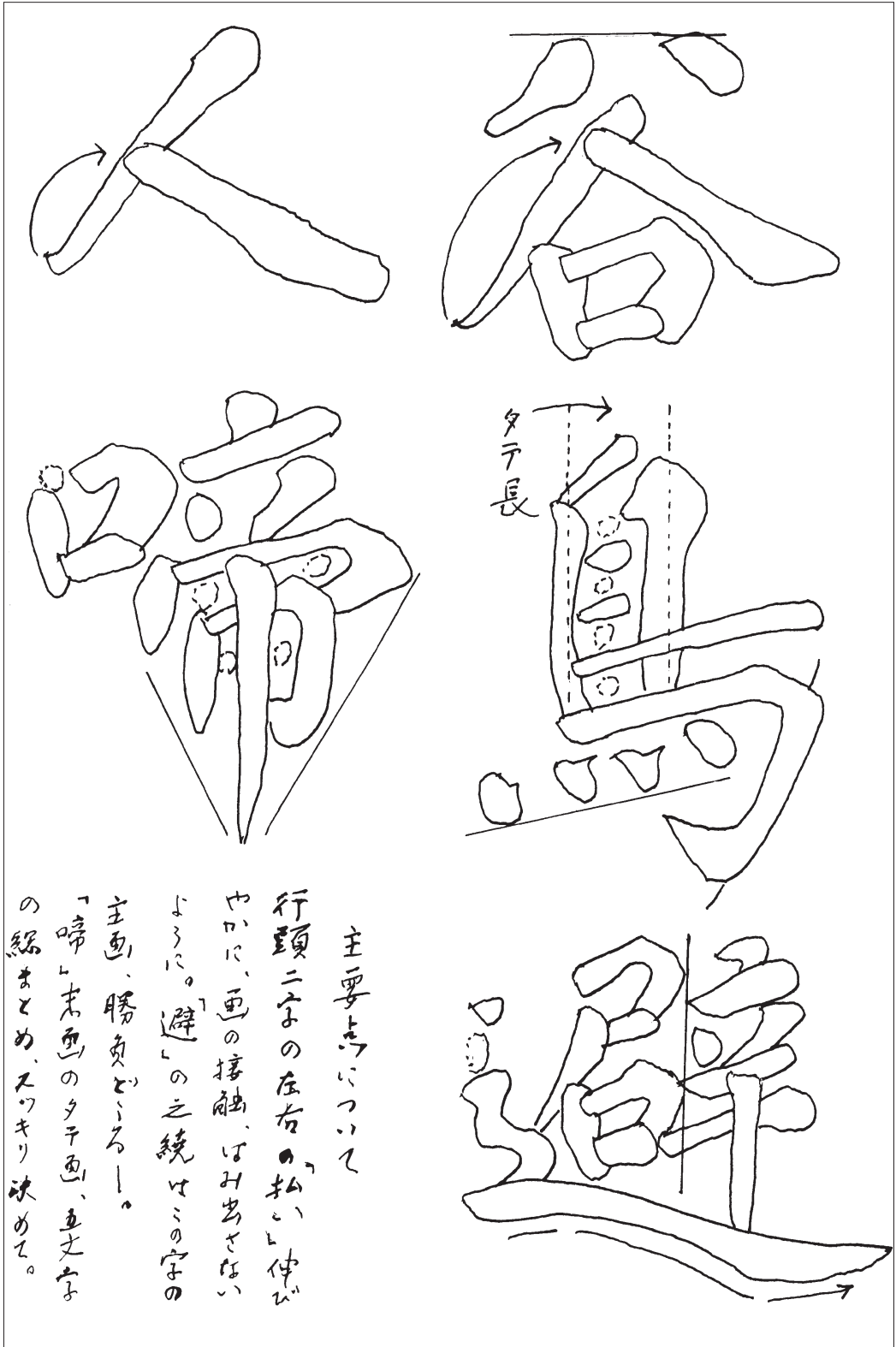


訳：谷間の鳥は姿をかくしてさえずる。

▼注意……はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。

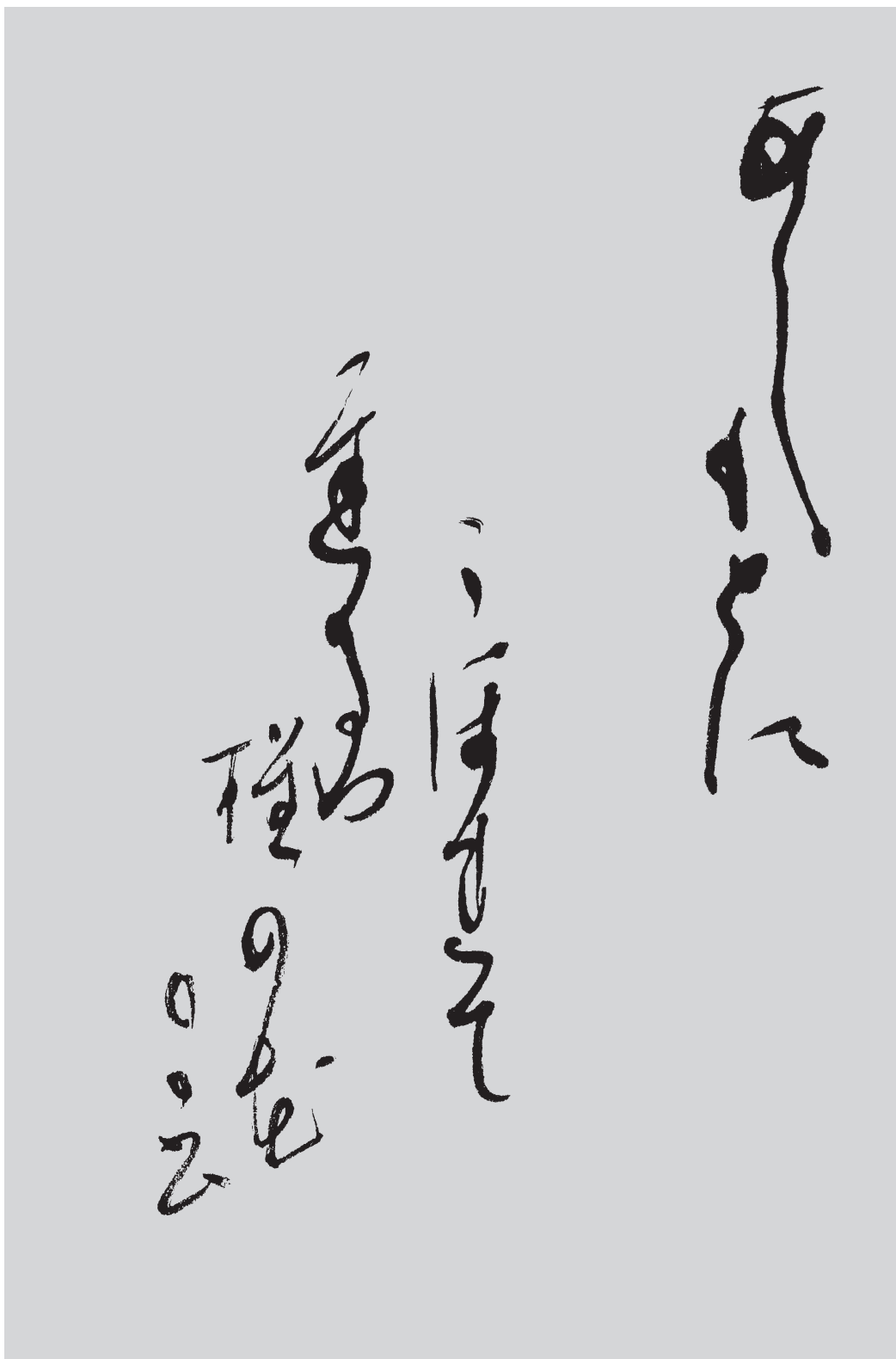
- ① 漢字部
- ② 支部名または都道府県名
- ③ 氏名または雅号
- ④ 新

会員は無料、会員外出品料は四〇〇円。



平岡華雪先生書

足もとにこぼれてちるや椎の花(李里)



▼注意……はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。

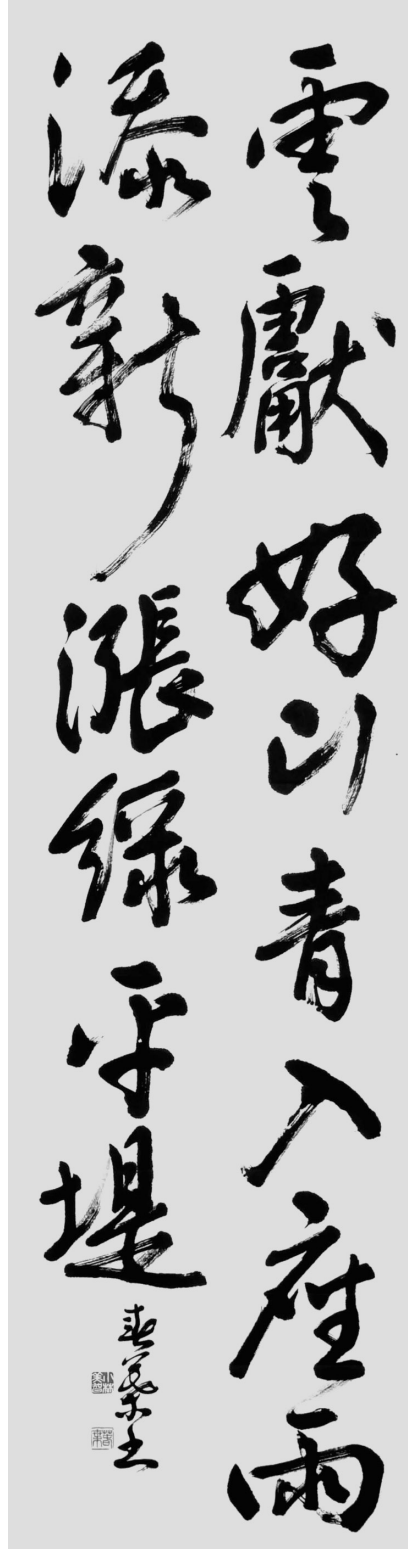
- ①かな部
- ②支部名または都道府県名
- ③氏名または雅号
- ④新

会員は無料、会員外出品料は四〇〇円。

所々味々の寸時をー
書き出ーの「あー」「こー」の
表きは筆管先生
の持ち味。「し」の
意連かポイント。「とに」も「し」の
字幅で右群を支える。左群は見所「ま」の
行頭「こ」「達」のふも場大小の照え。「こ」
の放ち書きか注目点。「指」と「ヤ」に空りせて放ち書き、「の」の末筆を
長く伸ばして「た」に連続、末画と点を遠く放出の締めー。

小林 春葉 先生 書

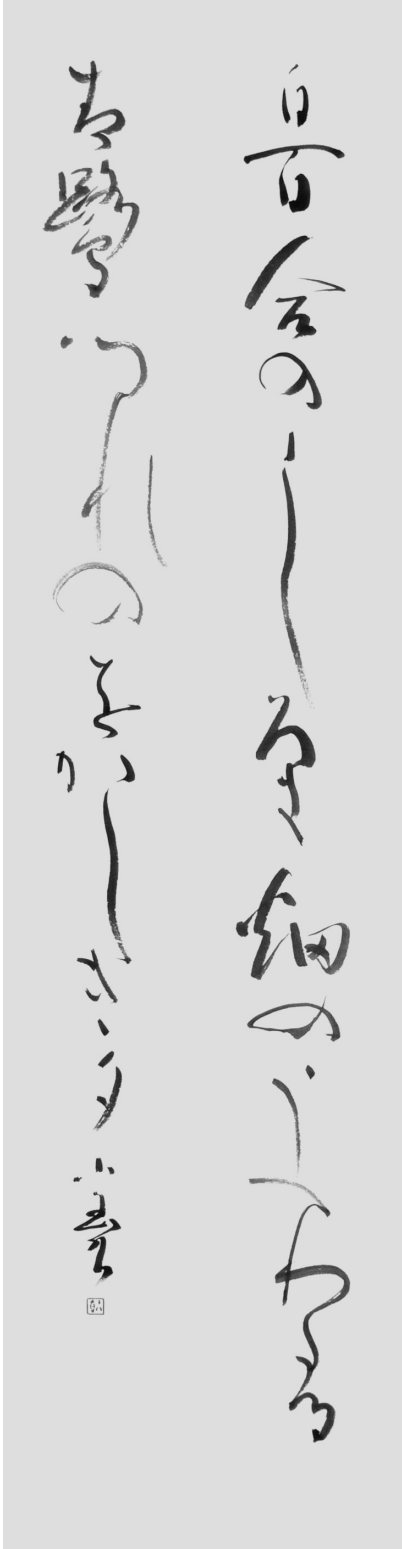
雲獻好山青入座 雨添新漲綠平堤 (主渥)
 雲は好山を獻じ青座に入り、雨は新漲を添えて緑堤に平なり。



訳：前面の山色の好景を呈して席上に入りくるのは去来する雲のなせるわざ。雨は新水を増して濛々として土手と平らかにみなぎった。

高山 小玉 先生 書

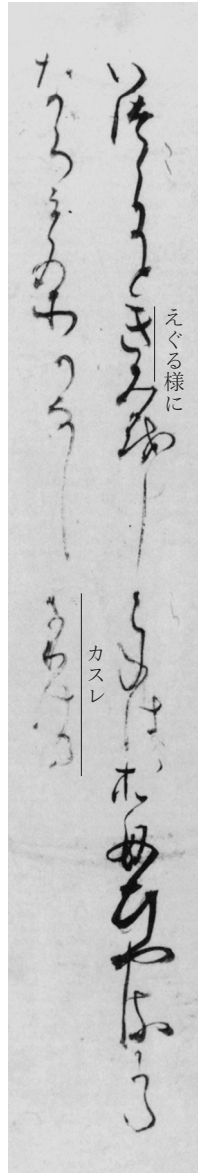
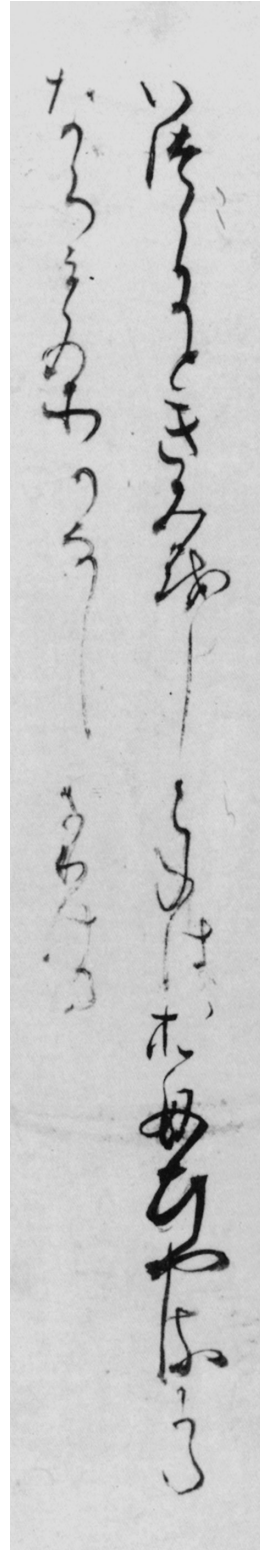
白百合のしろき畑のうへわたる青鷺づれのをかしき夕 (与謝野晶子)
 白百合のしろ支畑のうへわ多る青鷺づれのをかしき夕



- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条随を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条随を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

題 課 部 書 臨 幅 条

石原春香先生担当 和泉式部統集切 伝 藤原行成（日本書学大系・法書篇） ※条幅臨書部は出品料無料です。



いづこにときみをしらねばおもひやるかたなくものぞかなしかりける
 い徒こ尔ときみ越しら年は於母ひや流可多なく毛の所可奈し可利ける

△学ひ方

筆管を手前に倒して「いつこにと」リズムカルに。「らね」は省略法。「おもひやる」は筆圧変化。「於」で細くだんだん筆圧を加えて太く「流」で細く。墨つぎは「い徒」と「於母ひ」。「越し」の「し」は紙をきる様に「可奈し」の「し」は紙面にくいこむ様に。
 和泉式部統集切は線の太細に大きな落差のある古筆です。筆の上下運動、順筆、逆筆と多様性があるのでおもしろいです。

△連続

省略連続法 II 文字の終画と始画を共有する連続法。



重心移動連続法 II 墨量や筆圧の変化で文字の左右に線の太細をつけ、バランスをとる連続法。



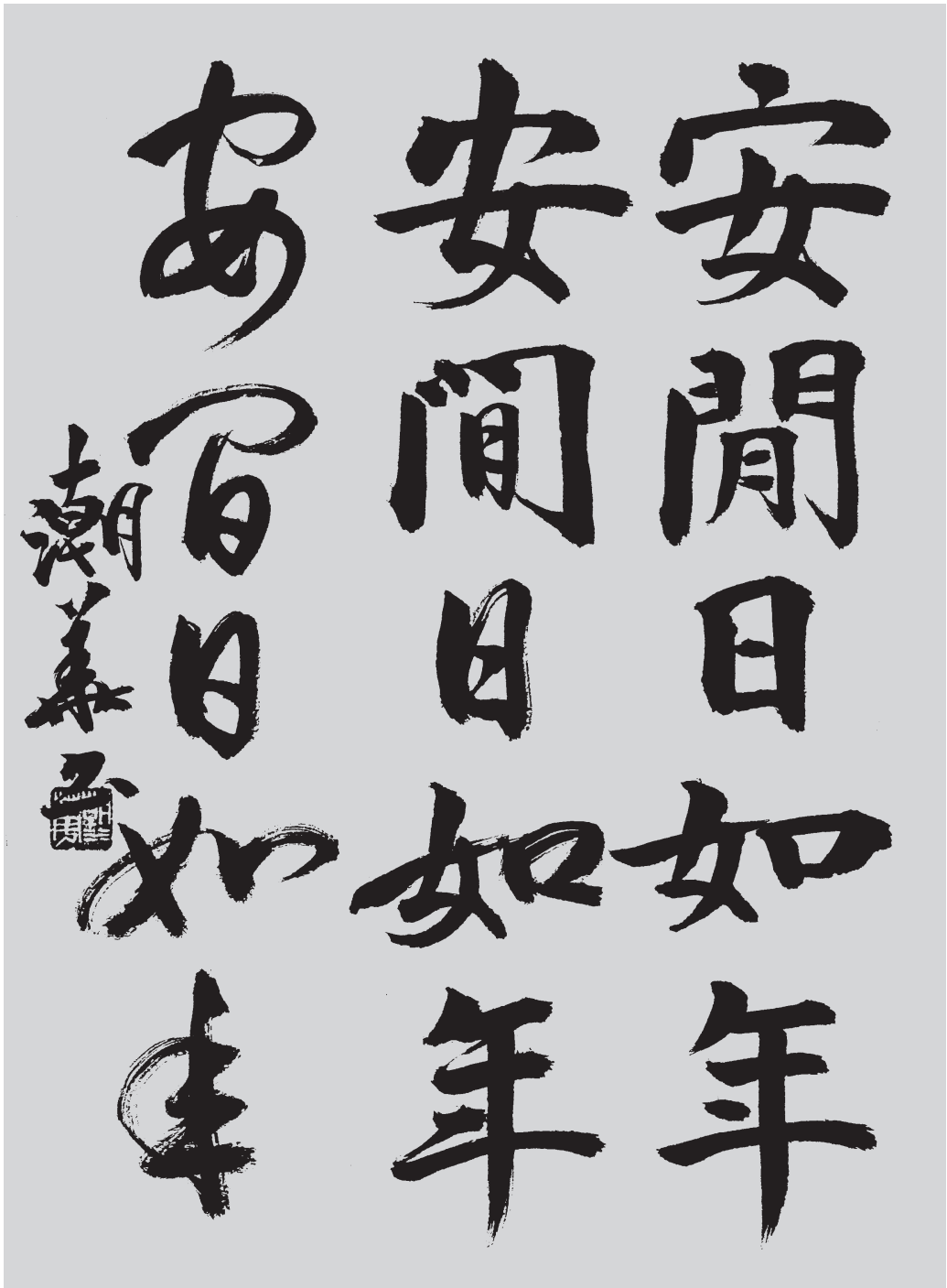
用筆法 II 穂先を紙にくいこませる様な逆筆、あるいは逆筆に近い直筆。螺旋運動をくり返しがいい。横画の入筆はえぐる様にそして厚みを。転折はバネを活して。
 料紙・体裁 II 白または薄藍・茶地に丸竜、牡丹、松などを空摺（木版で模様などを浮彫りふう）に表し、彩色しないもの）にした楮質の料紙。もとは粘葉装の冊子本。

（次回につづく）

◆注意 ・条幅臨書部の出品はバーコード券右空欄に条臨と記入する。

水 貝 潮 華 先 生 書

安閑日如年
安閑日如年の如し。



訳…安樂で閑暇で一日は一年とも思われる程に長い。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は400円。

星野春陽先生書

高吟暢玄修 靜悟契畫意（沈時）
高吟玄修を暢べ、靜悟画意を契る。

高吟暢玄
修靜悟契
畫意

春陽
星野

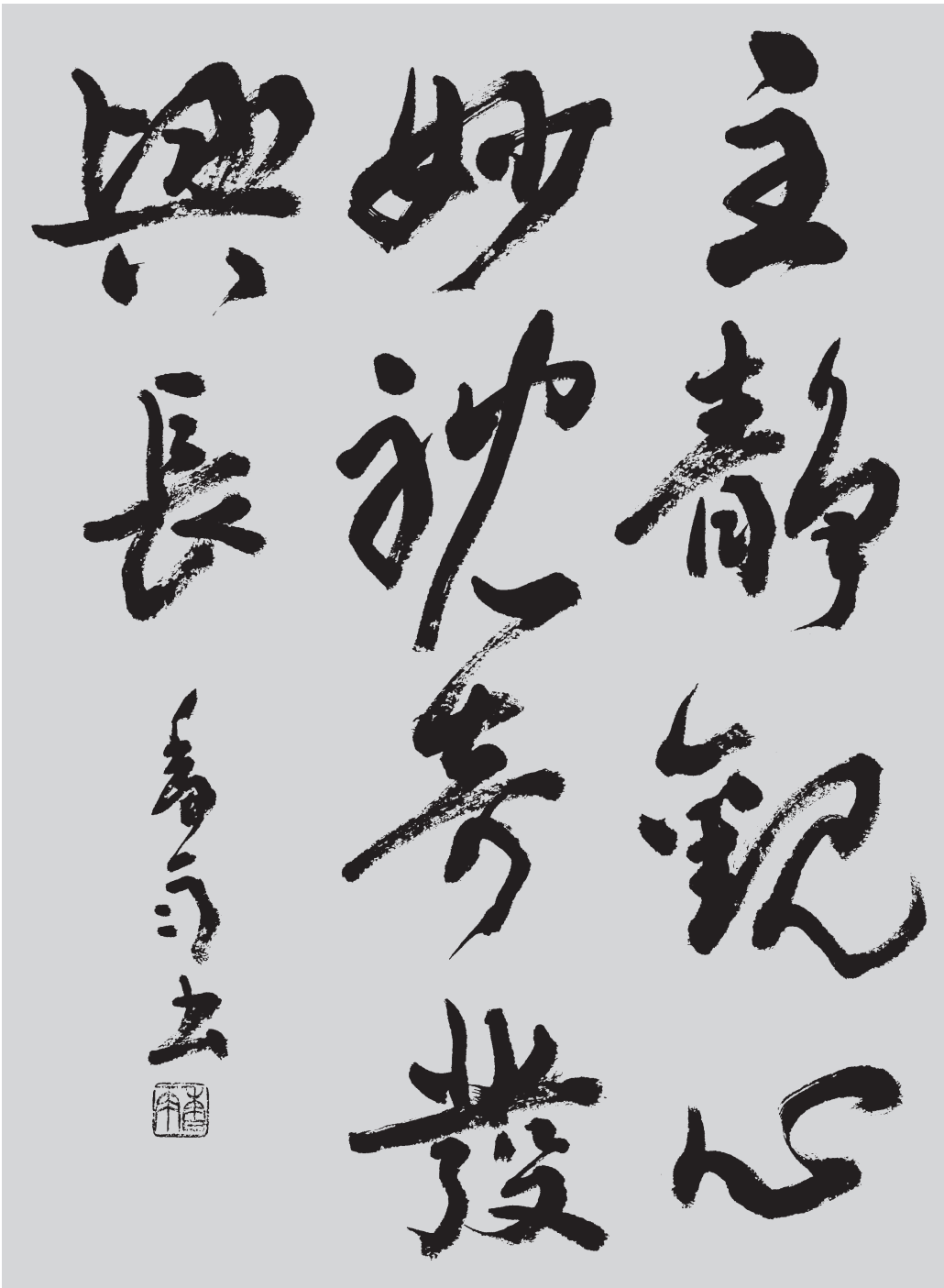


訳…声高く吟ずれば老莊深奥なる道がのべられ、静かに悟れば絵の趣が心にわかる。

◆随意部参考として出品してください。

酒井香雨先生書

主靜觀心妙 耽奇發興長（張紹文）
静を主とし観心妙に、奇に耽って発興長し。



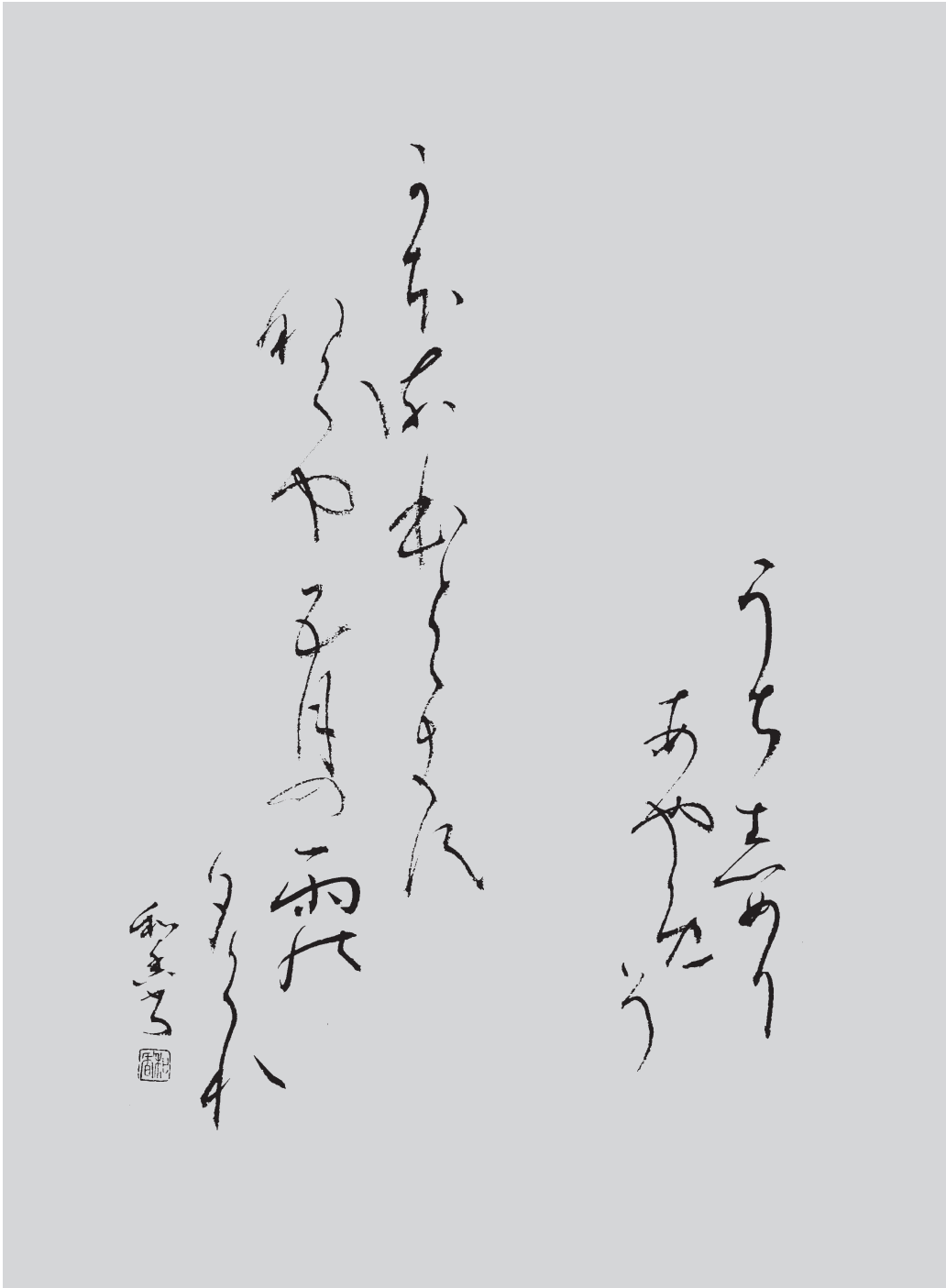
訳：静寂を主とすれば心を観察することが霊妙で、新奇な事に一心になれば興味の生じることが深い。

添削又は手本希望者は本会規定により、酒井香雨先生（〒144-0043 大田区羽田3-13-10）に直接お申し込みください。

内
田
和
香
先
生
書

うちしめりあやめぞかほる郭ほととす公なくや五月きの雨あめの夕暮ゆふぐれ（新古今和歌集）
うち志しめりあや免め曾そ可か本ほん流りゅう本ほんと、支し須す那な久くや五月きの雨あめ能のう夕ゆふ久くれ

撰政太政大臣



添削又は手本希望者は本会規定により、内田和香先生（〒426-0045 藤枝市泉町56-7）に直接お申し込みください。

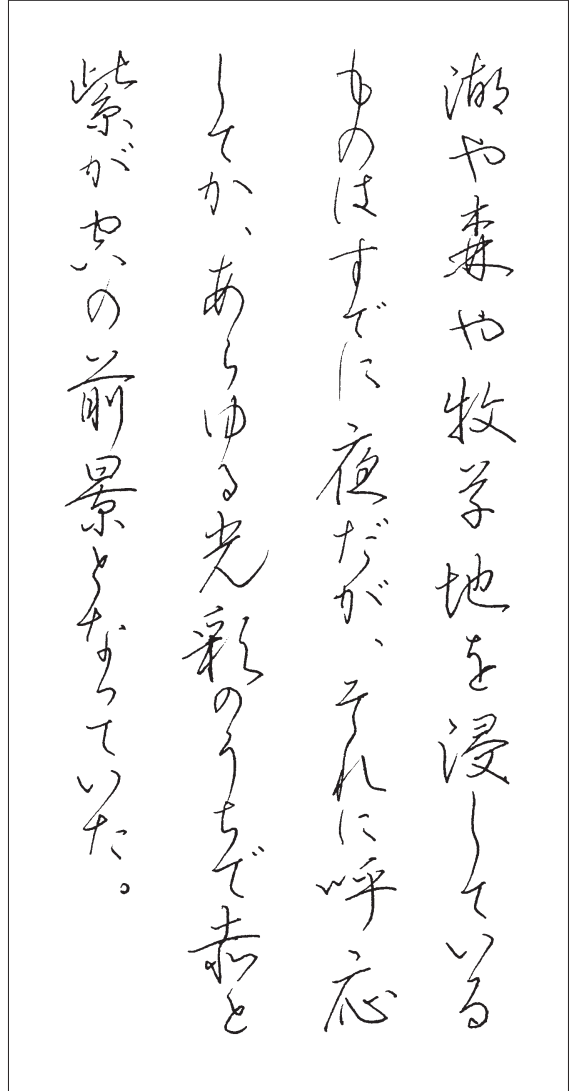
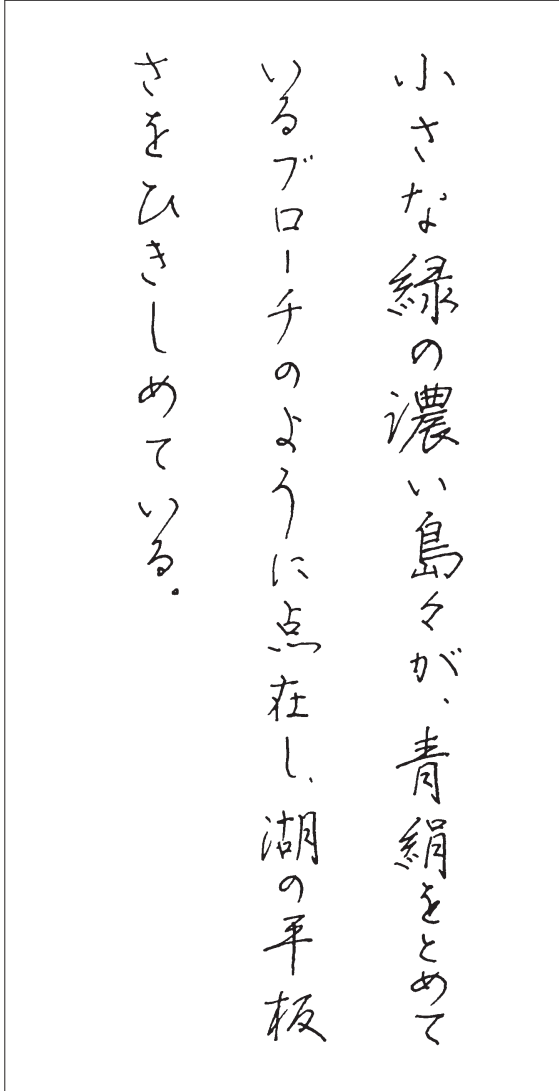
湯澤春翠先生書

路川千曄先生書

課題2 (初段格以下)

課題1 (初段以上)

正教授
創作部門(自運作品、自由形式、硬筆用紙使用)で出品。審査料九〇〇円



課題1 (初段以上)

湖や森や牧草地を浸しているものはすでに夜だが、それに呼応してか、あらゆる光彩のうちで赤と紫が空の前景となっていた。

〔夏の闇〕開高 健

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (2) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位) 次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (3) 会員は無料・会員外は四〇〇円
- (4) 添削希望者は直接担当の先生にお申込下さい。(返信用封筒に自分の住所・氏名を記入し、切手を貼って同封のこと)。
- (5) 課題1 六〇〇円
- (6) 課題2 三〇〇円

課題1 路川千曄先生 〒二〇七〇〇二三

東大和市向原五ノ一〇九一ノ四

課題2 湯澤春翠先生 〒三七一〇〇二六

前橋市城東町一ノ二九ノ五

課題2 (初段格以下)

小さな緑の濃い島々が、青絹をとめているブローチのように点在し、湖の平板さをひきしめている。

〔小さなみ〕瀬戸内晴美